

小説書き出しクイズ

組

番

書き出し	作品名	作者名
グーシユは町の活動写真館でセロを弾く係りでした。		
これは、私が小さいときに、村の茂平というおじいさんからきいたお話です。		
清兵衛が時々瓢箪を買って来ることは両親も知っていた。		
ある日の暮方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。		
廻れば大門の見返り柳いと長けれど、お齒ぐる溝に燈火うつる三階の騒ぎも手に取るごとく、……		
私は、その男の写真を三葉、見たことがある。		
親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている。		
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。		
道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思ふ頃、雨脚が杉の密林を白く染めながら、……		
隴西の李徴は博学才穎、天宝の末年、若くして名を虎榜に連ね、……		
「おい地獄き行ぐんだで！」		
吾輩は猫である。名前はまだ無い。		
私の書齋のいろいろながらくた物などをいれた本箱の引き出しに昔からひとつの小箱がしまっている。		
高瀬舟は京都の高瀬川を上下する小舟である。		
メロスは激怒した。		
十年をひとむかしというならば、この物語の発端はいまからふたむかし半もまえのことになる。		